明治卅六年四月五日第三種郵便物認可　毎月一回一日發行　價八錢

家庭雜誌

第五卷
第五號

明治四十年三月一日發行

Dai 5 Kan.　KATEI ZASSHI　Dai 5 Gō.

育將軍と美人……白柳秀湖……一
屠畜場(上)……堺利彥……二
死……深尾韶……六
筒袖の葬式……堺爲子……八
母と二人……西村渚山……一〇
孤兒の追懷……はる子……一三
西洋菓子の拵方……山田嘉吉……一四
謀反人の血……大石祿亭……一六
紅涙……上司小劍……一八
結婚法改正案……一九
愚妻論……中尾傘瀨……二〇
露西亞の女學生……大杉榮……二三
女學校評論(四)……目黑里人……二五
▲青山女學院
婦人界の二大會合……三〇
▲婦人矯風演說會
▲婦人記者倶樂部例會
新刊紹介……三一
ローマ字欄……深尾韶……三三

家庭雜誌社
東京府下新宿淀橋町柏木三百四十二番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

石鹼と洗粉は
何れが好きか

●壹圓の舶來石鹼よりもクラブ洗粉は衛生美身術に適合す

●幾百種の洗粉の中にてクラブ洗粉のみは石鹼以上の特點あり

●クラブ洗粉は御婦人方は勿論紳士方の愛用もまた盛なり

●クラブ洗粉は各地の信用ある呉服店及び小間物店化粧品店にて販賣せられつゝあり

神戸市花隈町間ノ踏切上ル本店
大阪東區北久太郎町四丁目御堂筋角支店
中山太陽堂

第貳回募集

佛教大辭典

文學博士 南條文雄先生序
文學博士 村上專精先生序
文學博士 前田慧雲先生序
文學博士 高楠順次郎先生序

文學士 望月信亨先生
ドクトル、オブフエロソフイー 荻原雲來先生
文學士 鈴木暢幸先生
文學士 加藤玄智先生
共編

〔附録〕
佛教大年
容索引畫引索引

洋裝堅牢美本
四六倍判 千七百余頁
特畵數十葉 極彩色木版 ゼラチン版
寫眞版 凸版等 六百餘面挿入

弊店時世の要求に鑑みる所あり曩きに佛教大辭典の豫約募集を開始するや甚大の讃辭空前の大好評を博して二月十日非常の大盛況を以て之を締切るの光榮を得たり、然るに期限終了後も猶續々遠路邊陬の地より御申込斷ゆる事なかりしが遺憾乍ら弊店は一々之を謝絶致したりき。されど熟ら思へば徒らに期限確守を誇として大方の御希望に背くこと、されば平生の御眷顧に酬ゆるの道に非ず、且此の如きは學術界の爲に盡さんとする書肆の本領とする所に非ずとの御忠告も少からず、依て茲に萬障を排して奮って第二回の募集を開始せんとす。然るに本書の編纂は實に六十有余の大家の親しく事に係はるゝ所なるが故に貴重なる新材料の發見せらるゝもの多く且畵引索引以外精細なる新案内容索引の新に加へらるゝありて遂に二百頁余の紙數増加を見るに至りたれば豫約方法を下記の如く改むるの已を得ざるに至りたりと雖も本書が愈完全缺くる所なきに至れるを思ひて弊店は私かに第二回の募集に於て倍舊の光榮を擔ひ更に本書完成の上は學術界の爲に偉大なる貢獻を爲し得る事を信じて疑はず。希くは多くの猶豫なき今回の募集期限に遲れて悔を千秋に遺し給はざらんことを。

但第一回の應募諸君に對しては別に増額の淸求を致申さず候

豫約方法

甲種 金七圓 三月廿五日迄に全額一時拂込

乙種 金八圓 三月廿五日迄に金貳圓四月より七月まで毎月金一圓五十錢月賦

丙種 金九圓 三月廿五日迄に金二圓製本出來期までに殘額拂込

別に郵送料 市内は金五錢内地は五十錢淸韓臺灣は金七十錢を要す

製本出來期本年七月中申込着金順により發送す

見本 往復はがきにて至急御申込あれ

正價金拾五圓

申込所 東京市京橋區五郎兵衛町 (振替口座三八壹七番) 金尾文淵堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ローヤル水ハ
最モ高等ナル最モ進歩セル最モ名譽アル化粧水ナリ
定價 拾錢 拾五錢 廿五錢

ローヤル白粉ハ
最モ改良セル最モ優等ナル無害ナル白粉ナリ
定價 拾錢 拾五錢 五拾錢

東京銀座壹丁目
發賣元 つやぶきん 佐々木商店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌

第五巻第五號

盲將軍と美人

湖

▲春とは名ばかり、筑波颪が街頭の砂を吹いて、身を斬られるように寒い日の、陰鬱な火ともし頃で御座いました。麹町から赤坂へ下りる電車の中で、私はフト旅順の戰に明を失つた山岡少佐を見ました。

▲馴れぬ盲人のはしたない擧動を羞ぢたので御座いましよう軍服は着ないで、身輕な洋服に、鳥打帽子、杖をついて居ました。すると此勇士と並んで、それはもう恍惚とする樣に美しい、妙齡の美人が座つて居ましたが、大理石の樣に白い顏に、鼻が少し高すぎるかとも思はれる程でした。

▲噫、盲將軍と美人、何といふ對照で御座いましよう、私は勇士と美人の姿を熟々見比べて居ましたが、何だか悠う、情ないような云ひ知れぬ悲哀にうたれました。

▲勇士とか、英雄とか又美人とかいふものは或意味に於て社會多數の娛樂の犧牲ですれ、賞讃とか、喝采とかいふ事も、此娛樂の爲に、多數民衆が拂ふ觀覽料のようなものではありますまいか。

屠畜場（上）

（名著ジャングルの一節）

堺利彦譯

此の屠畜場は一マイル四方に餘る廣さで、其の半分以上は家畜箱になつて居る。南から北まで目の届くかぎり遙々と箱の列を成して居る。そして其中には、此世界に是れ程多くの家畜が居るかと思ふほど、家畜が一パイ入つてゐる。赤いのもあれば黒いのもある。白いのもあれば黄色いのもある。老いたるもあれば若いのもある。大きなこてい牛の吼えて居るのもあれば、生れて一時間も經たぬ小さな仔牛もある。柔しい目をした乳牛もあれば、長い角のある恐ろしげなテキサス牛も居る。そして此の夥しき家畜箱の間に、そこゝに長い廊下の樣を路があつて、其路に少しづゝ間を置いては戸が附けてある。熊藏は此頃の新聞で見たと云ふので、其の戸の數が二萬五千あると云ふ事を、大得意で皆に話して聞かせた。皆は驚いて打たまげた。其

間にも義助は又、自分は既に仕事を得て、此の大事業の一部に加はつて、此の大器械を運轉する齒輪の一つになつたと思つて、獨り窃かに得意であつた。

此の廊下の如き路の此處彼處に、長靴を穿いて、長い鞭を持つたる男共が、馬に乘つて駈けて行く。彼等はさも忙がしげにして、折々立止つては箱の中に居る人と話をしながら、手帳を出しては何か書きとめて行く。是は諸方から集まつて來る、家畜の持主や仲買人共である。それから熊藏は家畜の目方を量る處を指ざして皆に示した。其秤は實に大きなもので、一時に十万磅まで掛けられる事になつてゐて、其の目方は自動機械で現はれる事になつて居る。今彼等が立つて居たのは東門の近くで、此の東門の側に鐵道があつて、家畜を積んだ車が其の上にズン／＼入つて來る。此車は昨夜よどほし運轉して居たので、それで今總ての箱が一パイになつて居るのである。そして今夜までにはそれが皆な空になつてしまつて、それから元の如く一パイ詰めこまれるのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『マア此の夥しい獸をどうするのだらう』と襟瀬が訊んだ。『今夜までには皆んな殺されて肉になつてしまふんでさア』と熊藏が答へた。

熊藏の語る所に依れば、此の搆内を幾重にも廻つて居る鐵道が凡そ二百五十哩ある。そして其の鐵道が毎日凡そ一萬頭の牛と、一萬頭の豚と、五千頭の羊とを運んで來る。之を一ヶ年に計算すると、約一千萬頭の家畜が人の食料となる譯である。義助等の一行は猶ほ熊藏の指さす所を見て居ると、此の家畜箱の上に高く架けられた、幅二間ばかりの空橋が幾つもあつて、家畜の群が皆それに追込まれて居る。家畜は是等の橋に依つて絶えず彼方の建物に流れこむのである。彼等動物が何んにも知らずに、自ら其の運命に向つて進んで行く、此の死の河とも云ふべき光景は、實に見るに忍びぬものである。然し詩人ならぬ我が田舍人の一行は是が亦た人の身の運命を示すものぞとも氣は付かず、只だ此の大規模の計劃に驚嘆するのみであつた。

家畜箱を見て後、一行は此の搆内の中心たる、建物

の群がつた處に行つた。建物は皆煉瓦作で、それが煙に汚れて眞黑になつてゐる。そして其の壁には、大きな文字を以て、一面に『プラオン商會』『グラム商會』『帝國ハム』『鑵詰牛肉』『壺入ハム』『鷄肉たゝき』『極上肥料』など書いてある。成程新聞紙や汽車の窓で善く見た、あの大きな廣告の本元は此處であるかと、見物人は皆な是にうなづくのである。

彼等がグラム商會の或建物に入ると、外にも見物の人が澤山に待合せて居たが、やがて案内者が來て場内を見せて歩いた。會社は廣告になる事とて、何時でも喜んで縱覽を許すのであるが、然し熊藏が小聲で意地惡るく語つた所に依れば、見物人は、會社が見せて善いと思ふ所だけしか見せられはせぬと云ふ事である。

彼等は建物の外側にある長い長い梯子段を昇つて、五階か六階かの頂上に達した。此處に彼の家畜箱からの空橋が架つて居て、豚の群が跡から跡から順々に押しのぼつて來る。頂上には廣い豚の溜り所があつて、それから又小さい戸を潜つて他の室に入つて行くが、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

モウ其室からは決して再び出て來ないのである。

其室は幅の狹い、横長い作りで、見物人の爲に高い廻廊が設けてある。先づ彼方の端に周圍廿間ばかりの大きな鐵の車がある。其車の輪の處々には環が幾つも附いて居る。そして此車の兩側に狹い餘地があつて、彼の豚共が長い道中の最後として、とう／＼此處に出て來るのである。豚共の間には、大きな黒奴が眞裸で立つて居る。車は今止まつてゐる、黒奴も暫し其の手を休めて居る。一二分たつと車が又動きはじめる、兩側の人々も直ぐに仕事に取かゝる。人々は手に手に鐵の鎖を持つて居て、其の一端をば豚の足に縛りつけ、他の一端をば車の環に引かける。それで車が廻るにつれて、豚は眞逆樣になつて釣りあげられる。

此の時、忽ちにして、耳を劈く樣な恐ろしき叫が起る。見物人はビツクリして、婦人は色を失つてしまつた。豚は車の頂上にまで引ずられて、そこで電氣を掛けられては床の上に落される。次の豚が又釣りあげられる。其次のが又やられる。とう／＼豚が車の輪の上

に二列になつて逆樣にぶらさがり、足で蹴つては悶きながら、今を限りと泣き叫ぶ。其の叫聲の烈しさは、人の鼓膜も破れんばかり、此家の屋根さへ飛んで行かぬかと思はれる。キー／＼と泣く大きな高い聲もあれば、ウン／＼と唸る低い哀いな聲もある。それが皆暫く小止むかと思へば、又忽ち諸聲に破裂して、一齊に絶叫する。見物人はモウ堪えがたくなつて、男達は顏見あはせて妙な顏をする、婦人達は手に汗を握つて目には涙を浮べて居る。

其間に、床の上の人々は、豚の叫にも、見物人の涙にも一切平氣で、一疋づゝ豚を釣上げては、一疋づゝ其喉を切つて棄てる。床の上には喉を切られた豚の幾十疋が長い列を成して唸りながら轉がつて、黒血が其間からダク／＼と流れて居る。そして最後には、熱湯の大桶の中に投込まれて其の姿を失つてしまふ。

是れが即ち器械を以て豚肉を製する法で、其の順序のうまく行く事は、見て居ても面白い樣である。然し如何なる俗人でも、恐らく之を見て豚の運命に思ひ及

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬ者はあるまい。彼等は全く無意無心の者で、人に信頼して善く從順に此處まで來たのである。彼等は毛頭こんな目に會ふべき筈はない。然るに此處の遣り方は實に酷い。之を殺すが上に侮辱を加へてゐる。足を縛つて逆樣に釣上げるが如き、冷酷無殘な事をして、そして一言の謝罪を云ふでもなく、一滴の涙をそゝぐでもない。尤も見物の人が折々涙をこぼす事はあるが然し此の屠畜機は見物人の在ると否とに係はらず動いて居る。實に是れ此の世の外なる地獄の樣である。

嗚呼是等の豚も亦た各々一個の生物である。或物は白く、或物は黑く、或物は黄に、或物は班であつた。或物は老いて、或物は若く、或物は瘦せて長く、或物は骨格逞ましく肥えて居た。彼等は各々其の個性を有し、各々其の意志を有し、各々其の希望を有し、各々其の慾情を有し、各々自ら信ずる所あり、各々自ら重んずる所があつた。然るに彼等が安心して此處に進み來るや、運命の黑き影は彼等を待受けて其上に蔽ひかぶさり、忽ち其の足を取つて彼等を引さらふたのである。彼等の反抗も、彼等の絶叫も物かは、運命は只だ其の殘忍の志しを遂げるのである。彼等豚の身には初より何の慾望もなく、何の感情もなきかの如くに、直ちに其の喉を切つて其の死にゆくを見るのである。嗚呼世には此の豚の人格を尊しとする神は在らざる乎、此の豚の叫と苦みとに意義ありと見そなはす神は在らざる乎。誰か此の豚を搔抱きて、其の生前の功に報いて之を慰め、其の犧牲の意義を知らしむる者は在らざる乎。我が義助の淺き心でも、幾許か此種の考が浮んだと見えて、一行を促して此處を去らうとする時、『可哀そうに！然しマア己が豚でなくて仕合せだ。』

新刊紹介

▲簡易生活（第四號）　上司小劍氏の處女作なる小說三寸は、愈々出で、愈々君の奇才を現はし來る。但し主人公の宇都宮は、どうやら小劍君を三寸だけ小さくした人のやう也。

▲ホトヽギス（第五號）　明治の才媛が未だ曾て描き出し得なかつた嬉しい情趣をあらはしてゐます、と漱石氏が殊に序文として記した、小說『緣』を讀む。チヨツト面白き者也。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

死

深尾韶

◎死と云ふ問題！どの人にもどの人にも此黒い影が附き纏はつて居るのだ。どの家にもどの家にも折々は此死神が見舞ふのだ。

◎死と云へば一概に厭なもの丶様な感じがするけれど必ずしも厭なもの悲しいもの哀れなもの恐るべきものばかりでは無い。おめでたいのもある、結構なのもある、マア此の方がと云ふのもある。

◎荒畑君——と云へば諸君は本誌の誌友寒村君を直ちに思ひ出すヿが出來るであらう——秋の温かい日に音羽の護國寺のあたりを散歩して、櫟林の間を拔けて、女子大學生の白いエープロンに新時代の婦人を想像した文の筆者荒畑寒村を。あの文の本誌に書かれた少し前、寒村の愛人は妹を一人つれて遙々京都から上京したのであつた。そして寒村は其愛人と結婚したのだ。

◎妹と云ふのは秀子さんと云つて上方づくりの小がら

な、年よりは餘程若く見える、而も可なりによく肥つた二十一の娘であつた。肋膜が少し惡いとの事であつたが、此の冬の瀬戸を未だ越し切らぬ二月の二十二日と云ふに、フト病が革まつて、返らぬ人になつて了つた。

◎其二日ばかり前に病牀を見舞つた時は熱が三十八度で此様急な事とは思はなかつたが、ホントに惜しいヿをして了つた、此若さで。

◎どう考へても彼人が居なくなつたのは餘り突然すぎる、未だ生きて居るんぢや無いかと云ふ樣な氣がする、併しホントに死んだものとすれば之は實に哀れな死だ本人の爲には悲慘な死だ。二十一まで戀も知らず——否無理やりに戀知らずになつて——或はならせられて娘盛りを齷齪と衣食の事に勞して、それでお仕舞とは何と云ふ情けない世だらう。死んだ人の爲に泣いたつて泣き切れやしない。が、今の世の中ぢや此樣例は幾つもある。

◎ボクは七回人の死に遭つた。大伯母の死が一、祖父

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の死が二、叔父の死が三、教へて居た小供の死が四、土佐衛門が五、死刑が六、それから秀子さんが七。

◎忘れもせぬ二十七年の五月五日、靜岡監獄で市川寳吉と云ふ人の死刑執行があつた。ボクは當時其監獄に給仕を勤めて居たので小供心のワナ／＼と顫へながら死刑の一什一伍を見た。彼は靜岡の町に火を放つて數千戸を燒き、其混雑に乘じて窃盗を働いた、旅稼ぎの藝人であつた。死と云へば此樣恐ろしい死に方もあるのだ。けれど其時の彼の覺悟のよい、眞面目な顔付は、目かくしゝて次第に青くなり行く首をくゝられた面と共に長くボクの記臆を離れない。

◎之も其頃であつた、靜岡で何かの爭論から兄を斬つた弟があつた。苗字は忘れたが名は金藏とか言つた。その金藏が警察の手を遁れて俄かに姿を失つた。八方に手を分つたがドウしても見當らない。それが或日の事フイにお濠の中に浮いて居た。ボクも出勤の途中で丁度之を見たが、首には二三貫目もある石を繩で縛り付けてあつて、身體は言ふに言はれぬ堪らない臭氣がする。檢視の役人の言ふ所によれば投身後たしかに二週間以上だらうとの事。あゝ死には又こんな厭なものもあるのだ。

◎小供は七つの女の兒であつた。出來の好い、顔なぞの皮が薄くて桃色の肉の透徹つて見える、白皙人種みたいな兒であつた。名は近藤こうと云ふ。三十二年の秋、風の心地だとて寢たきりであつた。之は實に悲しかつた。

◎叔父は日露の戰爭に少尉で死んだ。大砲の丸に當つて一つの紀念も殘さず奇麗さつぱりと此世から消えて了つた。出征を送つた時には悲しかつたが死んだ報知を聞いた時は、自分もサンザ人を殺したらうから仕方が無いと諦めた。

◎祖父と大伯母との死はめでたかつた。年も十分であり、思ひ殘す事は無し、嘸本人も滿足であらうと思ふと、どうやら其の死顔も頗る平和らしく見えた。

◎人さま／＼死いろ／＼、自分の死んで行くまでには未だ幾度か人の死を送らねばなるまい。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

筒袖の葬式

堺為子

▲母上の病氣危篤と云ふ報を得て、先日、堺夫人は故郷の金澤に歸省せられた。所が間もなく母上が亡くなられて、其の葬式の折りに、大勇猛心を奮つて平素の禮服廢止說を實行せられたさうで、其の實況を堺君の許に知らせて來た。次に揭ぐるのは其の一節である。（棄）

こゝ一週間ばかりは、夢のやうに、苦しい夢を見るやうに、日を送つて來ました。

私の意見を徹す爲めに餘り頑固にしましたので、親切な人達にまで萬端の世話をも斷はらねばならぬやうになり、自分一人で何も彼も遣り遂げた辛さは隨分ひどかつたけれど、馬鹿々々しい葬式の儀式は半ば以上壞して、極々質素に濟まして仕舞ひました。妹のみは如何してもと云ふので、禮服で野邊送りはしましたが、私は例の筒袖のまゝ燒香して、親戚の人達から氣儘で失禮だなどと叱られました。親戚の婆さんが『おとうさまの時には、あちらでも帳場が立ち、こちらでは帳場が立つて、それは〳〵賑やかしい事だつたのに、おかあさまのはマア何といふお淋しい事でせう』など

ゝ不平を云い出します。悲しい葬式を食ひものにしてと、私達は負惜を云ひます。親の死を輕々しく思ふ娘さん達だと人樣はプウ〳〵申します。

二月二日は灰葬といふて、骨をひろひに行くのです。金澤風では、親戚知人が禮服姿うつくしう、賑やかに車をつらねて火葬場に繰り出すのですが、丁度此の日は雪がはげしく降つて、一尺ばかりも積つてゐますし、火葬場は向ひ山つゞきの山の半腹にあるのですから、到底車では行かれない、或はあとおし車なら行かれるかも知れぬといふ次第、私は實に困つて仕舞ひました。昨日の葬式の時も、吹雪がはげしくて困つたのに、今日も亦此の雪路をどうして行かうか。一層私一人ならば草鞋ばきでも行くものを、なまじつか親戚の人達が禮服などを着用して來てるのだから、左樣も行くまいと思案にくれてゐました。

さうかうする內、寺の坊さんが遣つて來て、サア〳〵と急かされますので、遂に禮服の人達には斷りを云ふて宅に殘つて貰ひ、私は筒袖を着たまゝ、妹も一寸着

のまゝ、坊さんと二人で歩るいて談議所村の火葬場へと出掛けました。
町はづれの茶店で一寸息み、それからはつま先上りの山路で、蝙蝠傘を杖にして雪の難路をやつとの事で歩いて行くのです。遙か向ふの山は越中の福光あたりか。今自分が上つて來る山のつゞきは何處か知れないけれど、初めての道だけに、心細いやうな哀れぽいやうな淋しさを感じます。兩方が高い山で、其の眞中の細い道を夢のやうに行きますと、杉の木立ちの雪がざら／＼となだれ落ちて、頭からばつさりかぶる氣持の惡るさ、僅かに三四町の處を十里も二十里も行くやうな心地して、漸く目的の處にたどり着きました。それから合せ鍵を出して、燒場の中から灰をかき出すのです。齒だの、喉骨だの、頭の骨だのと、妹と二人して拾つては瓶の中に入れます。そして其の間坊さんはお經をあげて呉れます。私は、丁度七年前、おとうさんのお骨を拾ひに來た時の事を思ひ出して、其の時の悲しさを、今日の悲しさに加へるのです。

何しろ寒むい四方眞白の雪の山の中ですもの、早く歸らう早く歸らうと坊さんのお經の終るのも待たずにお骨の瓶は、自分の着てゐた合羽をぬいでそれに包んで、小わきに抱へ、又ぞろ蝙蝠傘を杖につひて、轉びかゝる體をさゝへながら、やうやくに無事に歸つて來ました。
是れだけの事をするのに、何で禮服が入るものですか。却つて邪魔になるばかりぢやありませんか。ねエあなた！ 禮服を着るのは、たゞ近所の人への見えを飾るのです。大勢車をつらねて行くのも、たゞ／＼全盛を示す爲めなのです。それだのに、私達が平常着のまゝ雪の難路を踏みわけて、母の骨拾に行つたのを、親の死を輕々しく思ふ人だなど、批難するのは、一體何のつもりなのでせう。若しそんな事を云ふなら、平常着より外にない人は、如何すれば善いのでせうと、心中大に威張つてゐました。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

母と二人

西村渚山

自分は今老ひたる母と共に、臨時の獨身生活を續けて居るのである。去る五日、妻が亡兄の子供を迎へるべく田舍へ出發してから、もう二週間以上になる。

母は不思議な程健康體の人で、此間の節分會には、七十と一粒の豆を數へた。健康自慢の父親も「丈夫な婆さんぢや」と云つて、折々感心して居る。平生は孫娘と三人で、別の家に隱居して居るのだけれど、一朝事あると、母は直に自分の家へ手傳ひに來なければならぬ。今度のなども其例の一つで、人手の少ない自分の家は、常にこの七十歳の後備家事擔當者に負ふ所が多いのである。併し、幸ひな事には、隱居所が直ぐ住居の前にあるので、交通上の便利は頗る善い。朝、自分を勤務に送り出すと、其邊を取片付け、流し元の仕事を濟ませ、火の要心を見、戸締りをして、隱居に歸る。隱居に歸ると、孫からは越後獅子のやうになつた

頭髮を突付けられる。蒲團はまだたゝまずにある。戸が明けてない。忙しいことだ。やつと仕度をさせて、孫を學校にやると、今度は部屋の掃除。次は流し元。十一時には午飯の用意。二時からは買物に出掛ける。四時前には夕方の御馳走、何時でも食べられるやうにして置いて、再び母屋へと引返す。五時にはもう自分が歸る。それ迄に、御飯も炊き、おかずも作らへて置かねばならぬ。食事後は自分が書齋に這入ると、母は暫時煙管と親んで、それから、雜巾を刺したり、着物の綻びを繕つたりする。用事のない時は、母と二人で炬燵に温まり乍ら、故鄕の話やら、自分の少年時代の興多き物語をして、十一時頃迄寐ずに居る事がある。其樣な時に、姉だの姪だのが訪れて來ると、話が一層色が付いて、俄に茶の間に春が來る。自分は徹夜する事もあるが、大抵は十一時前後に床に就く。朝、六時過ぎに目を醒すと、母は既に起きて居て、雨戸などを明けて居る——此頃の生活は略ほ此樣なものであるが、概して云へば、寂しいと云ふ事を免かれぬ。全くさう

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思ふ。母と二人の生活は、無論春ではない。と云つて夏でもない。と云つてまた秋でもない。それは冬である。併し炬燵のある冬である。戸の外は北風吹き、霜白く、家の中には艶麗の聲なく、華美の色彩がない。併し、一道の微かな光りがある。磨硝子を通して受ける日光のやうに、派出ではないが落付いて居る。これが母の情ではあるまいか。

　母の愛と情は、年經るとも消え失せるものではない。其の子が「大人」と云ふ座に塗れた着物を脱いで、口元の髯を忘れた時、懐かしい愛と情とは、無盡藏に味はれる。世にあまへることを知らぬ人は、母親を生き乍らに葬る人である。自分は十五の時から故郷を離れ、社會と云ふ大きな坩堝の中に漂ふて居たので、「大人」になるのが誰よりも早かつたやうに思つて居る。一つは性質にも依らうけれど、白狀すると、母の前に現在の自分を赤裸々に打明けることが、何となく子供らしく、又恥辱のやうに感せられるのが常であつた。實はこれが大きな誤りで、人は幾歳になつても、母の前に

は永久の幼兒でなければならぬのである。

　あゝ、尊き御姿よ。今では薄く、小さき髷にも堪へぬ頭髪も、父が迎へる樂しき新婚の幸福に浴した時はどうであつたか。自分に初めて國語を教へたのは、あの色あせた唇ではなかつたか。自分を柔かに抱たのは、あの皺だらけの手ではなかつたか。――斯う思ふと、少年時代の事共が明々地と空想に浮んで來る。それは、すべて母の愛の領域である。母は云ふ。

「お前はちらけ好きやつたわさ。」

散らけ好き！　實際さうである。自分の机の上は、何時も散亂けて居る。捜し物をしても、後片付をするのが厭で厭でならぬ。それと同じやうに、仕事の上にも、自分は矢張散らけすきだ。一として筋の立つたものはない、果然、母はこの弱所を知つて居る。恐ろしいことではないか。斯くの如くにして、自分が幾ら飾つたとて何にならう。幾ら隠したとて何にならう。縦し其の繕ひが首尾能く他人を瞞着し得ても、この一人の母ばかりは誤魔化せぬ。神と共に長く自分の秘密を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

握つて居るのである。

「母上さん、今でも矢張同じことですよ。」

斯う事實を語るより外に仕樣がない。それでも、母は別段さげすんだ顔もせずに居る。

母はまた自分の好き嫌いを能く知つて居る。夕飯の膳の上には、大抵千切のハリ〳〵が附いてある。浸し物がある。醤油で煮締めた黒豆がある。皆な大の好物だ。只勝手の換つたのは、御飯の硬いぬきが軟かいのに變つた事で、これには母も折々失敗して、

「おう〳〵また硬かつたわ。」

と詫びるやうに云ふ。夕方歸ると、着物が炬燵に掛けてある。好きな缺餅が燒いてあるし、汚れた靴下は洗つてある。萬事斯う云ふ風に、行屆いたものであるが、母が何時も不馴で困るのは、朝の牛乳を沸すことゝ、洋服を着ける時の手傳とである。牛乳を温めるのは善いが、始終土鍋の蓋を取つて、匙でガイ〳〵掻廻して居られる。忽ちにして沸騰する。その時の慌てさ加減と云つてはない。洋服を着る時には、ホワイト、シヤ

ツが温めてあるが、何時もチヨツキを忘れて、上着を直ぐに持つて來て下さる。時に、垢の附いたカラーの冷いのに驚ろいては、

「まあ〳〵この「輪」の冷いこと。」

と云つて、手早くそれを火の上に翳して下さる。

此樣な風で、自分は今、寂しい、併し温かな朝夕を送つて居る。自分は料らぬ今度の機會から、母に對して、僞りの衣を一枚脱いだやうな心地がして、愉快でならぬのである。（二月二十日稿）

新刊紹介

△青年氣質（布施知足譯）　米國の牧師ジヨン、ヴィンセントの「青年の研究」を譯せる者也。内容は、「浪費者の馬鹿太郎」だとか「意地張の悦子」だとか「贋紳士吹太郎」だとか、種々なる青年男女の模型を擧げて、之れが訓誡を說きたる者也。譯文甚だ流麗。（價参拾錢本郷區駒込西片町十番地内外出版協會）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

孤兒の追懐

はる子

をさなき我れを後にして
さきだちませる母君の
すがたぞ闇を去りかねる、
あした立ちそふ霧のごと。

むつかりて泣く我が頬の
涙を、み手にはらひては、
白きみそでに搔きいだき
さゝやきませし、み姿よ。

ならひそめたる歩みにも、
かたことのみのはなしにも、
つゝみかれたるよろこびは、
君がおん眼にかがやきぬ。

日毎おひたつ兒を見れば
母がうれひは消ゆときく、
神のみくにゝ、をり〳〵は
母も我れをやおもふらむ。

我れを愛せし母なれば、
神のめぐみや深からん、
いともしづけき聖の座に
とはの愛子とすゑられて。

たゞかりそめの疾病にも、
燃ゆるひたひに、唇つけて、
熱きなみだをはら〳〵と
ちさき我が頬に傳へけり。

色うつくしく摺られたる
繪ぶみひらきて一つ〳〵、
ならひ覺えし言の葉の
綴りを、いかで忘るべき。

君がいのりをかたはらに
をさな心にみならへば、
小さき我が手をさし上げて、
教へたまひき、のりごとを。

わするゝひまもなき母は、
あまつみくにゝおはすらむ、
とはの聖座に、きみとまた
めぐりあふ日ぞ、待たれぬる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

西洋菓子の拵方

山田嘉吉

（三）チョコレート、エクレール

Chocolate eclaire は又一名 Cream puff とも云ふ。

▲材料

（一）牛乳　一茶碗

（二）バター　一卓匙

（三）粉　茶碗に凡そ八分目

▲方法

（一）牛乳にバターを入れて沸かす。

（二）煮立つや否や粉をかき廻しながらふりこむ。

（三）かなりに固い糊のやうなドーにする。大抵蕎麦又は饂飩のドーのやうな固さであればよい。

（四）しばらく冷し卵一つ入れてよく掻き廻す。手では掻き廻しにくいから芋マッシャーでかきまわした方がよい。

（五）又卵一つ入れる。やすまずに十分間位かきまはす。

（六）餘り固くて搾り出すこと出來ない位ならば卵の白一つ入れる。

（七）厚い紙を以て、先尖り上廣くて漏斗の形したものを作り、先尖を一寸切り、其中へドーをつめる。此紙の筒をペーパーコーチットと云ふ。

（八）盤によく油をひいて其上に凡そ長さ二寸ふとさ五分位に筒からしぼり出す。しぼり出した時、形のわるいのが有つたら指に水をつけて押したり延べたりして直す。

（九）盤をオーヴンに入れ、スポンジケーキを燒くよりも少し強い火で三十分位やく。火の強さは二分間で紙のこげる位の火であればよい。

（一〇）表面のこらず茶色になれば燒けたのである。よく燒けない時は出してから折角ふくれ上つた菓子が凹んでしまふ。ためしにオーヴンの中から一つを取り出して見てこれが凹まなかつたら、もう出來たのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲詰物をする法

(一)焼けたケーキをオーヴンから出して、冷す。

(二)横へ小刀を入れて二つに割く。中が空のやうになつて居る。そつと中をゑぐつてもよい。

(三)掻廻したクリームを中へつめる。

(四)それから表面にチヨクレードをぬる。

▲チヨクレートを塗る法

(一)粉チヨクレートでも固めたチヨクレートでもよい。固いのはけづりくだく。

(二)チヨクレート一卓匙に熱湯一卓匙をかけてとかす。又其中に熱湯一卓匙を注ぐ。

(三)砂糖三X印一碗を入れよくかき廻す。

(四)濃すぎればケーキに着きがわるい。柔かすぎれば流れる。糊のかたさ位にしてケーキの表面にぬる。

▲應用

(一)Cream puff　これは形を長くせずに丸くして焼いて砂糖をふりかけたものである。

(二)Vanila fritters　はドーを作つてオーヴンにやく

代りに、丸くして油にあげて、カスタード、ソースを添へたものを云ふ。カスタードソースを添へずにたゞ粉砂糖をふりかけて出す事もある。

(三)其他いろ／＼につくられる。極細かにドーを丸めて油にあげればスープの中へ浮べる實ともなる。

(四)若しオーヴンの中で、焼きやうが足らなくて、凹んで仕舞つたときは、之を薄く横に切つて、スープの實にする。

久田君の手紙

拝啓数日以來小生の風邪重くなりまして、何處かへ轉地にでも出掛ければならんと思つてゐる位です、どうぞ原稿の儀本月は御許し下さい、願ひます

二月八日

西ヶ原　久田二葉

大杉君

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

謀叛人の血

祿亭生

昔から余が一族は皆變物であると、世人に言はれて來たものである。それは何故であるか今から考へて見ると、詮ずる所煩瑣なる形式と虛榮を輕視して、毫しも之に拘泥せぬ風がある故であらう。

先づ言語に就て見ても、お芋だのお蒲團だのお座敷だのと、すべて物の名におの字をつけて呼ばぬ。さうして言葉の使ひ方は成るべく簡易なものばかりを取る。御膳を給べるだの御飯を上るなど、言はず、唯だ飯を食ふと言ふ。おいしいと言はずして旨いと言ふ。休むと言はずして寢ると言ふ。上げると言はずしてやると言ふ。其他召すとか遊ばすとか成さるなど言ふ詞は使つた事がない。

又、煩雜なる禮儀を忌嫌ふて人に遇ふても天窓を下げる事を好まぬ。物を貰ふても禮を述べる事を知らず、人に與へても鄭寧に禮を言はれたら却つてまごついて

仕まふ。何卒、有難う、濟みません、御面倒、恐れ入るなどは言度くない。まして一家の內で朝晚お早うだのお休みなど小供や奉公人にも決して言はせぬ。用があれば無言つて這入つて行き、用が濟めば無斷で出て來る。御免とか左樣ならの挨拶は我々の得意とする所でない。

我々は物事に早く諦めをつけ或點以上は一向に平氣である。例へば病氣に罹つた時など大抵は自然療法に任せて妄りに醫者の助けを仰がぬ。よし之を求むる場合も一通りの醫藥に信賴する外、如何ほど危篤に瀕しても親類が大勢打寄つて騷いだり、醫者をあれかこれかと幾人も雇ふ樣な事はせぬ。況んや加持祈禱などに迷ふて何うしても之を助けんと願ふものはなく、醫者の手に叶はぬ時は死ぬであらう、死んだら埋めるより外に仕方がないと思ふて居る。我々は又一家の大事が持上つた場合にも親類中へ相談する事は少なく、大抵は自分だけで解決をつけて仕まふ。親子兄弟が途上で逢ふても知らぬ顏をして行過ぐると言ふ風である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

我々は法律や權威と言ふものは觸つたら面倒なものと言ふを知るばかり、之をチツトも有難いものとは思はぬ。又所謂忠義だとか親孝行と言ふ樣な事に多くの趣味を持たぬ。慈善だの公共と言つて大騷ぎする事を好まぬ。種々の寄附勸誘者が來ても唯乞食にやるつもりで之に應ずるばかり、其内に何等精神的の價値を認めて之に贊成するのではない。

右は余が一族でも最も正統派の性質を述べたもので、近來他人との交際上又生活的の必要上、知らず〳〵心にもなき事を言覺えたり仕習ふたりして、多少本來の流儀を失ふたものがある。現に余の如きは多年所々を漂流して種々の風俗に染まり、加之に醫者と云ふ商賣を覺えた爲め、隨分他人に天窓を下げたりお世辭も言ふ樣になつて居るが、到底生來の氣質が拔けては居らぬ樣に思ふ。

要するに、世の人から見たら余が一族には粗野な薄情な非團體的な、さうして謀叛人の血が循環て居る樣に思ふであらう。然りその血の中に幾分か奇矯な極端な分子が含まれて居るかも知れぬ。併しながら是れやがて繁雜なる形式と虚僞なる文明の毒に中てられた時代思潮の反抗者として存在の理由あるものでは無からうか。我々は自己の缺點と短所を省みて之れが矯正を怨せにせぬと同時に、益々天賦の特性を發揮してその使命を完ふせねばならぬと思ふ。

三號目次

▲山茶花とジヤガ芋（堺利彦）▲婦人の三模型＝貴婦人と家持女房と淫賣婦（堺利彦）▲美人と毒婦（深尾韶）▲西洋義齒無用論（大石祿亭）▲正月の園藝（久田二葉）▲西洋菓子の拵方（山田嘉吉）▲下女の樂に就いて（中尾余瀬）▲水道と女中（堀保子）▲轉宅悲劇（上司小劍）▲女工（山田孤劍）▲飼猫ナツメ（大杉榮）▲女學校評論（一）女子大學（目黑里人）▲婦人界の新思潮▲編輯局より▲ローマ字欄

四號目次

▲四ツの道德（大杉榮）▲禮服廢止論（堺利彦）▲さま〴〵の結婚（深尾韶）▲社會の産物（大石祿亭）▲西洋菓子の拵方（山田嘉吉）▲二月中の菜園の仕事（久田二葉）▲落葉朽葉（山口孤劍）▲美人と天才（中尾余瀬）▲間接の讀者（一讀者）▲釣鐘物語（大杉榮）▲女學校評論（二）成女學校（目黑里人）▲婦人界の新思潮▲記者より▲新刊紹介▲ローマ字欄

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

紅涙

上司小劍

一切の趣味を排斥し、總べての技巧を打破し、文學とか美術とか云ふことを、眞ッ向から叩きつけた、赤裸々の、乾燥無味の、只眼前咫尺の間に横つて居る黑闇々の生活問題を捉へた小說を書いて、氣の弱い日本の文學者なんて云ふものを驚かしてやりたい。とは我輩の去年からの願ひである。

それで先づ家を塵埃だらけの貧乏長屋の一偶に移して、そろ〱と趣味とか、美とか云ふ悠長なことを掃き棄つべく支度に及んだところが、思つたよりは生むが難儀で、いろ〱と差し障りが出來て、貧乏長屋の籠城は僅か二ケ月、柳暗花明、山青く水白き村に住む惡友に誘惑されて、到頭其の村に移つた。

背戸の筧に淸水が流れて、前の小川に鯉が泡沫を立て、低い森、高い岡、枯野の末に富士、秩父の山々の見える景色は、流石に美しい。一切の美感なんぞ云ふ

ものを頭の中から掃き出して仕舞ふたつもりで居た我輩もこゝに至つて、昔しの遊治郎が色町を通りかゝつた時のやうな感が起つて、久し振りに一晩遊んで見たいと云ふ情無い根性がむら〱と起る。

村の情趣はまだこの外にある。昔し〱この里に、多恨の佳人と、多淚の才子とが、森を隔てゝ住んで居たさうな。佳人の鳴らす洋琴の音と、才子の吹くハーモニカの響とが、一夜風を傳うて、森の頂きに行き遭ふと、佳人の高樓の窓が明て、燈火がパッと、サーチライトのやうに、二丁もこなたの、曲りくねつた野徑を照らす。この時才子の家の燈火がフッと消えて、ハーモニカを吹く寂しい姿は、何時の間にか野徑に現はれて、サーチライトの中に小さく描し出される。佳人の姿は明星の如く、其の半身を高樓の欄干に支へて、才子の姿を見たか、見ないか、才子の影がサーチライトの射界を遁れると、高樓の窓は閉されて、暗の色彩は天なる星と、地なる燈火の隙間を漏るゝ私語とのみである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

佳人と才子との戀は、この果敢無き逢瀬を發端として、寂しく、哀れに續けられたが、それも暫しが中、一夜秋風がこの里の木の葉も吹き落すと丶もに、村の美少年星は遠く／＼名も知れぬ胡沙吹く國の空に飛んで、佳人の姿もまた見えなくなつたが、哀れなる美しい骸は、近い海の漁夫の網に入つたとやら、千秋の恨事を語るものは、曾つて美人の紅涙を湛へた里の小川のせゝらぎのみである。

この里に移つてから三日目、橋の袂に駄菓子賣る媼から、この古い情話を聽いた我輩は、また忽ちにして、痛恨詩人の懐に抱かれたやうな氣がして、黑闇々の生活問題を捉へた小説は、當分書けさうにも無い。

日本の婦人運動

治安警察法の婦人の政治に係るを禁じた條項を廢止する爲めに、先日、數百名の婦人の連署した請願書を議會に呈出した。尙此の請願の議題に上る日には、此等の婦人は大擧して議會に押寄せるさうである。

結婚法改正案

列國が宗教上の勢力に支配せられつゝある結婚法を維持するより、人世の雜事少なからずとて、此の程ガブリエルロイテル夫人主唱となり、列國同志と共に左の結婚法改正案を可決せりと云ふ。

一、離婚の自由。

一、愛情なき良人、若しくは事情の爲め妻を離別せざる良人の不道理を、世に公示する事。

一、姦通は法律を以て罰せざる事。そは姦通せる夫若しくは妻も被害者との戀愛を維持する事あればなり

一、母は其の兒女に男女關係を明示す可き事。

一、子は滿十四歲迄母の看護に一托す可き事。

一、結婚を國法に任せざる事。

一、現代の女性教育は妻の養成に適せざるを以て、人の妻を養成す可き教育法を研究する事。

一、現代の女生は、男子にして自己に對する情慾を喚起せしむる事にのみ勉む。此の惡風を一掃す可き事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

愚妻論

中尾済太郎

日外、婦女新聞や家庭之友で「妻の呼方」「夫の呼方」などを彼是と論じて、之れを適當なものに一定しやうとした事があつたけれども、遂に小田原評定に了つて、何とも善い思付が無かつたらしかつた。此問題は之れよりも一昔前に、巖本君の女學雜誌で一度論じられたやうに記憶してゐるが、其の時も結着を見ずして過ぎたものだから、それで再び其後も論じられたのであらう。斯ういふことは漸次に定まるではあらうが、恐らく時の力であつて人の力ではあるまいと思ふ。時が來れば、人が殊更に强ひずとも自ら定まるものに違いない。

それよりも余は先づ、妻に對する夫の量見違いを悛めしむるが急要であらうと信ずる。此量見が正しく定まりさへすれば、夫の妻に對する態度も改まらうし、其の呼び方も改まらうし、隨つて其結果として、妻より夫を呼ぶ時の稱呼も自ら一定するに至るであらう。

それが今日では、夫の妻に對する量見といふものが甚だ慘い。時としては奴隷、時としてはお爨どん、否妻といふものは奴隷お爨と同様、若しくはそれらを兼ねたものと看做されてゐる。されば其の關係も宛然君臣主從のやうで、夫は所謂「檀那様」の權威を以つて妻に臨むのが、世間普通の狀態となつてゐる。罵詈、毆打侮辱、虐待、果ては離婚でさへ輕々しく實行される。其上妻の里方が多く舊式思想で、何うしても一度嫁入らしたものは成る可く忍んで納めやうとするし、女も離婚せられて獨立の計に迷ふし、又二度の嫁入となつては此東洋の「處女」を喜ぶ國柄では、何處へ行つても肩巾が利かぬし、それやこれやで不幸なる彼女を引き止めて、遂に無理からでも兎も角もの決着を付けさせて、女は到底損なものといふので、泣寢入とならしむるのである。斯んなことでは、「妻の呼方」を何う改めやうと言つた所で、甘く纏まる話でない。やつぱり「お何」の呼捨で、妻からは相不變面白くもない「檀那

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

様しを繰り返すに過ぎぬ。

見よ。新聞紙上の廣告を。妻が死んだ時、其夫は、「愚妻儀病氣の處」云々と記すではないか。愚妻とはあんまり人を馬鹿にしてゐるにも程がある。去れば新聞紙上に限らぬ。相當に教育あるらしき所謂紳士の階級にあることである。現に余の友人にも頻りに「愚妻」を振り廻す男があつた。其の男といふは、余が其新婚の祝を述べに行つた時、既に『これが愚妻で……』を遣つてゐたが、其後數年を隔てゝ逢つた時にも、相不變「愚妻」を續けてゐた。而してこれは世間一般の風で、余が茲に書き立てるほどに珍らしくない例であらう。男子の無禮は言ふまでもないが、婦人の意氣地無さも殆ど絶頂に達してゐるから斯ういふことになるので、これは宜しく男子に強請しても改めさすべきであるが第一は其根本の、婦人に對する料見違ひから責めて掛からねばならぬ。「愚妻」の稱呼の如きも、全く男子の料見違ひから來たものである。

斯ういへば、或人は妻からも「愚夫」と言ひ返へして

遁ればよいではないかと諭らう。併しそれは面白くない敵對の仕方である。眞の紳士淑女の學ぶ可き態度でない。それよりは先づ徐々に理を以つて説き、情を以て導いて行く可きである。是に於て乎、婦人の品格と見識とを要することになる。若し之れを要する婦人の品格にして高尙であり、見識にして立派であつたならば、世の男子は彼女に隨ふ事も敢て辭せぬであらう。『多情多恨』の鷲見柳之助は、現實の人物としては種々なる非難もあらうが、斯う説いてゐる。

『世間の人はね、能く話をする時、自分の細君のことを「嬶」など丶言ふよ。ね、さういふ人が能くある。これがお前（老婢に向ひてなり）紳士とも謂はれる人がだよ。俺には何ういふわけだか、あれが解からんね。何んで、そんなに輕蔑するのだらう。俺は他が「嬶」など丶言ふのを聞くと、「畜生」と言つとるやうに思はれて、不愉快で耐らんね。「畜生」と言ふのも同じぢやないか。こんなに輕蔑しとる細君なら、有たんがい丶のだ。其等の人は一體何ういふ精神で、妻を有つとるのだらう。妻と

第五卷（一五〇）

いふものを下女か、何かのやうに考へとるのだ。それだから其の細君が、頬さん（柳之助の妻）のやうに歿くなりでもすると、下女が出て行つたやうに直ぐに代を迎ふ。そうしてそれを當然のやうに考へとる。世間一般に。そんな方があるものか。俺は然うぢやない。俺は細君は朋友だと思つとるのだ、深切な朋友だと。實際さうぢやないか。」

實に妻は夫に取つて深切な一生の友でなければならぬ。善意の忠告者でなければならぬ。忠實な扶助者でなければならぬ。又時としては女王でもなければならぬ。元來男女は同等である。隨つて夫妻は對等である。其の間に尊卑の區別は無い。今男子のしてゐる仕事が、男子ばかりで出來てゐると思ふのは間違である。恰も今女子のしてゐる仕事が、女子ばかり出來てゐると思ふことの間違であると同じやうに間違である。試みに男子と女子と位地を換へて見よ。どちらも不成功に了るであらう。男子の尊い所は女子の尊い所、女子の尊い所は男子の尊い所である。

第五號（二二）

此故に余は婦人諸子が自ら「妾」といふ稱呼を用ゐることにも、深く反省を願いたい。曾て福田英子女史ー女子は今日女權擴張運動の急先鋒であるが、其『妾の半生涯』を出した時、余は實に『メカケの半生涯』と讀まうとした。當時萬朝記者も、此命題に就いてはひやかしてゐたと記憶する。「妾」の字の語原は知らないが、妻妾と續いて、支那でも日本でも、早くからメカケの意義に用ゐられてゐる。メカケとなつては、忽ち聯想が醜惡汚穢となるではないか。こんな字は全廢すべしであると思ふ位であるのに、賢明なる婦人諸子が今尚平然之を用ゐらるゝとは、甚だ不注意千萬と申し上げたい。男子から「妾」と呼ばれるわけも、一には婦人諸子が斯くの如く自ら極度に謙つてゐられるから男子がつけ上るのであらう。斯う見れば速かに諸子の醒覺を促したい。

尚世間には、わが息、娘を侮辱して（余は侮辱してと云ふ）愚息、愚娘といふ親達がある。息、娘が亦、親を侮つて（然り侮つて）愚父、愚母など、云つて、怪しみもせねば、寧ろ平氣でゐる。ナト是等は世間も慣み、個人も自ら咎めたが可からうではないか。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

露西亞の女學生

大杉榮譯

▲露西亞は、數年來熖々たる革命の猛火の中に包まれてゐる。併し、此の革命の口火が、嬋姸花の如き女學生によつて點ぜられた事を知る者は、世間甚だ尠ないのである。予は、此の革命の母たる露西亞の女學生の生活を、無政府主義の泰斗クロポトキン翁の自叙傳の一節に見た。よつて今之れを摘譯して、私が日本の婦人諸君に、其の意氣と熱誠とを傳へたいと思ふ。

予がサンペテルスブルグに於て發見した唯一の光明は、男女の靑年の間に起りつゝある諸種の運動であつた。予は今玆に、露國の婦人が高等敎育を受けんとして、如何に激しき運動を試みたかを、殊に書き述べて見たい。

毎日午後になると、予の兄の若い妻が、女子敎育學講習會から歸つて來て、いろ〳〵と學校で起つた新しい出來事を話して聞かせる。此の學校の生徒は、女子の爲めに醫學校と大學校とを設立しやうと、今其の計畫中なのである。授業が終ると、生徒が皆して學校の

事や、又諸種の敎授法に就いて討論をする。殊に熱心なる數百名の婦人は、特別の會合を開いて、種々なる方面よりして此等の問題を硏究討議する。そして其の團體の中の極く貧しい會員の爲めに、反譯社、出版社印刷社、製本社などいふものを設立して、兎も角も生活の資を得させる。何となれば、當時露國の婦人は、高等敎育を受けたいばかりに、如何なる苦辛をしてもと覺悟を極めて、此のサンペテルスブルグに集まつて來てゐたのである。

當時、政府は婦人が大學に入る事を許さなかつた。文部省では、女學校を卒業したばかりでは、大學の講義を聽く學力がないと云ふ。彼等は『善う御座いますそれでは大學の豫備門を開かして下さい。そしてあなた方のお好なやうに學科を課して下さい。私共は政府の援護などを籍りませんから、只其の許可さへして下されば善いのです。あとの事は萬事私共が致しますから』と答へる。併し、勿論許可はせられなかつた。

そこで彼等は、ペテルスブルグの各區に私立講習會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を設けた。そして此の新運動に趣味を有つ大學の教授連は、喜んで其の講座を受け持つ。のみならず、若し報酬などの話が出やうものなら、教授連は自分の貧乏も打ち忘れて、侮辱を受けたのだと云つて騒ぎ出す位である。其の他、毎年の夏、大學の教授の監督の下に、ペテルスブルグの近郊を修學旅行する。

産婆學校の生徒などは、いつも講師を攻め立てゝ、課程よりもずつと上の、補習科でも遣らぬやうな事を無理にも講義させる。そして機會さへあれば何處へでも進入する。先づ老ドクトルのグルーベル先生の解剖實驗室に出入する事を許される。其の他、若し或る教授が、土曜の晩と日曜とには其の實驗室を勝手に使はせる、など丶云ふ事を耳にしたら最後、土曜は夜遲くまで、そして日曜は終日、其の實驗室の中で勉强するのである。そして遂に、文部省の反對ありしにも係らず、彼等は今迄の教育學講習會の外に、別に大學豫備門を設ける事となつた。

斯くして、婦人は其の權利の輪を、歩一歩づゝ擴げ

て來た。然るに更に又彼等は、獨逸の大學の一教授が、數名の婦人に其の講義を傍聽させたと云ふ事を聞くや否や、直ちに其の門を叩いて、そして其の仲間入をさせて貰ふ。彼等のハイデルベルヒに往く者は、法律や歴史を學び、ベルリンに往く者は數學を修める。ツーリッヒでは百名ばかりの女學生が、大學や工藝學校の門に通ふ。そして彼等は、隨所に於て、醫學博士の學位其物よりも、更に貴重なる或る物を得てゐる。教授連は皆、公に口には出さないけれど、彼等に對して多大の尊敬を拂つてゐる。一八七二年に予はツーリッヒに行つて、數名の女學生と知己になつた。其の時予は、工藝學校に通つてゐるまだ年若い女學生が、永い年月の間數學を研究した者と同じやうに、熱學の理論の復雜した問題を、容易に解いて行くのを見て、實に驚嘆に堪えなかつた。ベルリンで、ワイエルストラッス教授の許に數學を研究してゐた、此等の露國女學生の一人の、ソフィー、コヴァレヴスキーの如きは、實に立派な數學者となつて、後にストックホルム大學の教授と

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して迎へられた。婦人にして男子の大學の教授となつたのは、恐らくば之れが嚆矢であらう。所が瑞典では、ソフイアが餘りに年若なので、皆ソフイア先生と云ふかはりに、ソニア〱（ソフイチヤンの意）と呼んでゐた。

亞歷山二世は女學生を非常に嫌つて、若し散歩の途中にでも、眼鏡を掛けた、ガリバルジー帽を被つた女學生に遭はうものなら、あれが自を狙撃しやうとする虛無黨かと云つては戰慄してゐた。警察では、女學生は皆革命黨だと思つて、盛んに迫害を加へる。御用記者カトコフは、毎日のやうに女學生に對して紙上に毒筆を揮ふ。然るに此の四面楚歌の聲の中に、露國の婦人は數多の高等學校を設立し終へたのである。一八七二年には、外國から醫學博士の學位を得て來た婦人連が、政府に迫つて、遂に醫學校設立の許可を得た。後政府はツーリツヒにゐる女學生の亡命の士と相交るのを恐れて、其の女學生等を本國に呼び戻した。然るに此の婦人等は、此の機會に乘じて、千名近くを收容し得る、四ツの女子大學を、露國の國內に設置するの許可を得た。此等の女醫學校は、非常なる迫害を受けて、一時は休校の止むを得ざるに至つたけれど、多數の卒業生を出して、今日に於ては六百六十名ばかりの女醫者を、國內の各地に散らばらせてゐる。

彼等が、斯くの如きの成功をもたらしたのは、實に絕對の犧牲の精神によるのである。彼等は、或は慈善看護婦として、或は學校の設立者として、或は村の小學校教師として、到る處に、其のあらん限りの力を盡した。一八七八年の土耳古戰爭の時などは、窒扶斯患者で滿ち滿ちた野戰病院に、或は看護婦として或は醫員として入り込み陸軍の諸將や亞歷山二世までをして、實に嘆稱措く能はざらしめたのである。要するに彼等は、如何なる地位でも、如何なる艱難でも、又社會の如何なる下層にでも、若し平民を助け得る事ならば、何にでも喜んで從事したのである。然しながら彼等は、決して孤立の人として行動しない、常に數百人數千人の團體として行動をした。

此の運動のもう一ツの特色は、婦人の團體には有り勝ちの、年長者と年少者との二ツの派が、互に分裂して相爭ふやうな醜態のなかつた事である。始めから此の運動を指導してゐた年長者等は、其の思想に於ては寧ろ更に進歩してゐた年少者等と、勉めて親密にするやうに謀つてゐた。彼等は總ての政治運動の外に立つ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てゐたけれども、彼等の主力は他日革命運動の渦の中に加はつた此の年少婦人の團體に在る事を、決して忘却し去らなかつた。此の運動の指導者は、改良主義を奉ずるものであつた。けれども彼等は、極端なる虛無主義を奉じて頭髮を短く刈つて、一切の裝飾品を捨てゝ、其の服裝や態度に於てすら立派に民主的精神を表はしてゐた、彼の年少婦人等と、常に親密を保つてゐたのである。

彼等は年少の民主的婦人に對つて、次の如く云ふもののやうに見えた、『私共は相變らず天鵞絨の上衣も着ますし、頭髮も結ひます。天鵞絨の上衣を着たから、頭髮を結つたからとて、直ちに現時の政治に滿足する者だとは云へません。併しあなた方お若い方が、あなた方の嗜好と傾向とに從ふのは、勿論自由であります。』

ツーリツヒにゐた露國女學生が、政府から歸國の命を受けた時、此の改良的婦人等は、之れに抵抗しやうとする年少婦人の行動には、決して反對の意を表はさなかつた。そして彼等は、政府者に對つて云つた『そんな事をしても駄目です。それよりは露國の國内に女子大學をお建てなさい。然らざればあなた方の娘さん

達は、ドシ／＼外國に逃げて來ます。そして亡命者と交を結ぶのは勿論です』。又、若し人ありて、彼等の運動はたゞに革命的婦人をつくるに過ぎない、と批難をして、其の大學を閉づるが善いなど丶云ふやうな事があれば、彼等は言下に答へて云ふ『左樣です。學生の多數は革命家になりませう。然し之れが大學を閉づる理由となるのでせうか。

彼等が斯くの如くに美事に其の運動を成功せしめたのは、其の外にもう一つ偉大なる理由の存する事である。彼等は、たゞに社會上政治上の特權的地位を得やうとする、所謂新婦人とは些か其の趣を異にしてゐる。彼等の多數の同情は、寧ろ貧民階級の中に注がれてゐたのである。予は、此の婦人運動の老將スタソバ孃が其の日曜學校に於て、他の婦人等と共に製造工場の工女と相交つて、種々と彼等可憐の少女の爲めに盡力してゐたのを記憶する。

彼等は、たゞに高等敎育を受けんとする個人の權利の爲めに鬪つたのではない。彼等は、貧民階級の爲めに有益に働き得る權利を得る爲めに、其の奮鬪を重ねたのである。彼等の成功は、實に之れに歸因するのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學校評論

目黒里人

(四) 青山女學院

●本多庸一君と船橋雄君　記者は澁谷の停車塲に下車して、青山の友を訪る丶度に、實踐女學校と、青山女學院と、青山學院とが横列を作して道を遮斷して居るが爲に非常な遠廻をさせられるには閉口する。けれども記者はあの道を通る度に、實踐の樣に極端な宮内省的、高天原的の女學校――寄宿舍の舍監時任某子が、下田歌子の意を受けて、或る學生が基督敎の宣敎師の宅に寄留して居るのに對して、非常な干涉を試みたといふ程の偏狹な女學校と、基督敎主義を標傍した青山女學院とが、棟を並べて立つて居るのを見る毎に兩者を對象して思はず微笑を漏らすのである。けれども明治四十年といふ今日、基督敎墮落の風潮に乘じて、之等基督敎主義の學校迄が、頑迷固陋なる、軍國主義、侵略主義、帝國主義の下に降つて、殆ど鞋の紐を結ぶばかりの醜態を演じつ丶ある事を想ふて、思はず憮然たらざるを得ない、實踐の頑陋は寧ろ憫むべきも、青山女學院の狡猾に至つては憎む可きの限ではないか。

青山學院の校長、本多庸一君は有名な政治家的の宗敎家で、日露戰爭の當時は其聖職を捨て丶外交官となつた程の恐ろしい活動家である。お隣りの女學院の校長、船橋雄君は、『宗敎家大會』の幹事でもなければ『黄禍說』辯解の外交官でもない。けれども其墮落の程度に於て本多君と殆ど匹敵する程のエラモノである。由來京都の同志社を初めとして、基督敎主義の學校が社會に比較的健全な人物を送り得たのは、かの固陋殆ど度すべからざる其あたりの敎育主義に對抗し、基督敎の、世界主義、博愛主義、個人主義を提げて青年を感化した爲である。其血脈を引く青山女學院が、如何に時代の推移とは云ひながら、文部省の感情を迎合せんが爲に、パリサイ、サドカイの學者も敢てせざる虛僞と、譎詐とを憚らないといふのは、何たる事であるか。さりながら船橋君は温厚の君子人である。此君子人の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

下に岡田某といふ文學士が居る。之がそも〳〵の難物である。

◉岡田君の軍隊主義　船橋君は今の處殆ど岡田君の影になつて仕舞つたような狀態である。岡田文學士は一年志願兵から歸つて來て、非常な勢を以て殆ど校長同樣に切りまくつて居る。彼は女學院の生徒を軍國婦人にでも育成する積りなのか、體操なども一切兵式で、寄宿舍等の嚴重なこと、幾多可憐の少女がかくして、其美しい性情を害はれ、迷妄と偏見とを助長せられる事かと思ふとホントに慘ましいではないか。

岡田君の軍隊主義は、船橋校長の指揮であるか、又岡田君自身の勢力で行つて居るのか、記者もそこまでは知らないが、兎に角、岡田君の軍隊主義の背後には、基督敎と文部省との關係があるといふ事丈は爭はれない事實である。

◉倫理の講義と出席簿　之は基督敎の學校一般の風潮であるそうだけれども、文部省の御機嫌を迎へる爲に特別に設置した倫理の講義がある。此講義の内容こ

そ、宗敎とは、水火、犬猿の比で、取つても附かぬものなるに、此講義に限り出席點呼の嚴重な事、それは〳〵驚いたものである。則ち此出席簿が文部省の意を迎へるのに最も肝要なものであるのだ。

昔基督敎徒は幕府の役人に畫像を踏ませられたそうであるが、今の……

◉牧野文相の訓令　此倫理の講義はかの牧野文相の訓令以來、非常に内容が變化したのだそうで、出席簿も其頃から特に嚴重になつたとの事である。

此學院の寄宿舍の生徒で、曾てストライキを企てた者があつたそうだ。處が、其後別に斷然たる處分もなく濟んだが、例の訓令が發表されて二日ばかり立つと、校長は學生一同環視の前で其可憐の少女に退校を命じた。其時かの副校長は聲を顫はし、尤も莊重なる態度を裝ふて一場の戒飾をしたそうだ。聞けば其少女は其場でアッと泣き伏したとのこと。

まだ何と云ふても無邪氣な、可憐な少女ではないか。處罰もこれではあまりに慘酷だ。殊に女學院の態度に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、此場合甚だ疑ふ可き點もあるではないか。

◉●新禱會　之も此種の學校に一般の流行であるそうだけれども、一週間に一度の祈禱會は出來得る限り、内々にして、大袈裟にやらぬ樣に氣兼ねをして居るそうだ。秘密にするといふのでもあるまいが、自ら大きな聲で云はぬ樣にするといふ樣な方針をとつて居るのである。

人は基督敎と文部省とが調和したといふ。けれども調和したものが、何故調和しない以前より醜劣な卑屈な氣兼ねをしなければならないだろうか。記者は基督敎が文部省に降參したといふの甚だ適當なる事を信ずるものである。

◉●●●●●●觀兵式と號外掲示　此學校の軍隊主義は前述の通りであるが、此學校の寄宿舍は一般の休日には一切外出させない、非常に嚴重な取締が行はれて居る。而も『觀兵式』があると云へば、必ず外出を許可する。從つて生徒はかの奉公人が『盆』と『正月』とを待つが如く、『觀兵式』を期待して止まないのである。

更に奇とすべきは、此學校では日露戰爭中、號外の掲示場を設けて、號外が來る毎に之を掲示して生徒に縱覽さしたそうである。

◉●結　『校費』の蜜に欺かれて、此學校に集まつた無心の少女は、かくしてイエス、キリストの名によつて、軍隊的束縛の中に、冷酷なる鞭韃を忍びながら、『卒業したら學校で敎師に世話して貰ひ度い』といふ夢の樣な希望に憧れて居るのである。

記者はかの青山街道から捲き揚げられる黑蛇のような煙塵が、校堂の屋根、硝子窓さては庭樹までを一面に包んで、戰後の光景を見るような殺風景な女學院の庭を物思ひながら、バイブルを片手にうなだれて苜蓿の花を踏み行く少女を見る毎に、文豪エミール、ゾラの小說を偲ばざるを得ないのである。

（完）

▲記者に宛てられたる投書數多あれど、紙數の都合にて掲載されず▲只二三の諸君にして前號の「女子大學の不始末」てふ數行の文字を以て記者がトボけたものなりといふ端書を寄せられたるは、甚しき誤解也。記者は平民社の社員に非ず▲次號には府立第二高等女學校を中心として第一、第三と比較、合評すべし。

二葉久田賢輝君

久しく心臟を病んで居られた久田二葉君は、一月の末に感冒に侵されて後容態一變し、終に二月廿七日午前八時府下西ヶ原二百九十四番地の自宅にて歿せられました。行年漸く廿四。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人界の二大會合

二月中に婦人界の二大會合があつた。其の一は婦人矯風演説會で、他の一は婦人記者倶樂部の例會である。記者は其の何れにも出席する事が出來なかつたが、幸に平民新聞の雜誌の中にこれを見るの喜を得た。次に其の二文を轉載する、矯風會の方は音羽巖穴君の筆になり、婦人記者倶樂部の方は荒畑寒村君の筆になつたものである。

婦人矯風演説會傍聴の記

婦人矯風會の大演説を拜聽せんとて、余が神田の青年會館に赴けるは二月十六日の夜七時廿分頃にて、今しも救世軍の山室軍平君が例の熱辯を揮て海外醜業婦の救濟を論じつゝある最中なりき、曰く、日本の移民が到る處婦人を弄する有樣は恰かも滿洲には滿妻あり、臺灣にはワンㇳ妻ありと云ふ風なり、曰く、日本政府は海外醜業婦の取締を嚴にせず却つて内地に多額の黄金を齎らすものとして寧ろ之を奬勵する風あるが如し此れ無智無教育の父母が娘を遊廓に賣り其金にて自分は左團扇にて生活すと同じ、如此國家を左團扇的國家と言はずして何ぞやと氣焔當るべからざるものありき、然れども氏の頭腦は現社會が何故に如此く多數の醜業婦を産出するやてふ根本問題に想到すべく餘りに縁遠きが故に、其の議論往々にして麻姑を以て痒を搔くの感ありしぞ遺憾なれ、デビー夫人次で登壇巧妙なるピアノの獨奏あり、終つてガイ博士は演壇に顯はれ罪惡論の題下に日本人宛然なる辯舌を揮へり曰く、世間を出れば出る程世間が戀しくなる此れ人の常情なり、男女は高尚の道に於て交らざれば必ず汚れたる道に於て交る、罪人と肺病患者は中々白狀せざるものなり、自由とは絶對的服從なり、我をして世に勝たしむるものは信仰なり、ガイ博士の演説終るや、婀娜窈窕たる妙齡の一婦人壇上に顯はれピアの獨吟を爲す、其の聲朗々として珠玉を瑠璃盤上に轉ずるが如し、之れ滿都青年學生の血を湧き立たしむる、有名なる藤井環子なりとぞ、次で四元某が薩摩琵琶、那須與市の演奏あり、滿場の青年をしてヤンヤと言はしめぬ、最後に島田三郎氏登壇、風俗と國運と題し、先づ婦人矯風會の事業を讃して萬綠叢中の紅一點なりと言ひ、夫れより諄々として説いて曰く、青年の功名心は最初は政治の方面にありしが今は轉じて事業の經營に移れり利益の追求、事業の經營即ち物質に富を得て世間に勢力を張らんこと現在青年の功名心なるやに思はる、然れども之れ極めて危し、日本の政治界が今日の如く衰へたるは畢竟從來の政治が虚僞權謀の上に建てられたる反動なり、故に事業經營に志せる現今の青年も自ら省みて誠實と正義の觀念を以て事業界に立つの心得肝要也、然らざれば現在政治界が受けつゝある反動を他日繰返すの時あらん、佛教は上より下に擴められたり、故に殆ど全國を風靡せり、基督教は下より上に及ぼさんとす其功績容易に擧らずと雖も畢竟は此の方民人を利する多からん、要するに風俗は上より下に及ぼさゞるべからず、上位に在る者は德を高くし道を整へて儀表を萬民に垂るゝの覺悟あるを要す、米國に於ける排日問題の一原因は我同胞の風俗不良なるに在るが如し、即ち公然遊廓を開いて恥とせざる我同胞の破廉恥は米人をして日本人排斥の善き口實を造らしむるなりとかくて散會せしは十時を過ぐる五分流石に世に時めき給ふ婦人矯風會の御方々の催しとて滿場殆ど立錐の餘地無き程の賑ひなり。

婦人記者倶樂部例會

▲去る十九日神田ニコライ會堂に開かれた婦人新聞雜誌記者倶樂部の例會に出席して記者は現代の婦人問題に就て云爲する論客の皆悉く男子中心主義の立場からのみ論じて毫も婦人に同情の無い事を染々感じた。

▲當日の婦人客は世界婦人社の福田、九津見二女史丈で外は皆悉く男子で二十三人許り、中には「殿方許りの集會と存じて」態々缺席した婦人もあつた、開會前に打ら揃ふてニコライの鐘樓や禮拜堂を見物したが其の金色眩き拜殿の飾り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

や御厨子や燭臺や宛然佛教のお寺へ行つた様で殊に「お祭り」が二ツ恭しく置かれて在つたのは何のお呪ひになる事やら。

▲會開かれて當日の話題討議に移つたが先づ「建部博士の離婚問題」に就て中川愛氷先生の「亭生が怒つてランプを打つけるからと云つて離婚するなどゝは女房の辛棒が足りぬからだ」といふ難有い大議論があり矢野浪滄、尾上新兵衛、福島四郎、齋藤吊花、神谷鶴伴諸氏の賛論やら駁論やらが出た結果「離婚は絶對に罪悪である」「一旦夫婦になつたらどんな事があつても辛棒せねばならぬ」「然し夫も妻に對してランプを打ちつけるのは餘り宜しくない」といふ事に結論したので僕は大に反對して「離婚自由論」をやつた。

▲やがて日が暮れかゝたので會員の撮影をなし晩餐を終つて次の話題「石倉文學士の結婚」に移り僕は自由戀愛論の立場から大に賛成の聲を揚げ且つ是を稱して堕落だとか罪悪だとか罵る世の頑迷者流を罵倒した處、明治の家庭の岸邊福雄氏は「日本には昔しから傳はつて來た結婚制度があるから自由結婚はイカヌ」婦女新聞の福島四郎氏は「青年の愛はマテにならぬ結婚には是非家名や位置にも重きを置かねばならぬ」中央新聞の尾上新兵衛氏は「自己の意志のみで社會や家庭との調和を顧みぬ結婚はイカヌ」といふ様な反駁が出たので大に論戰に花を咲せた。

▲然し乍らまた「見合主義」「壓制的結婚主義」の尾上氏も流石にコンナ事も云ふのであつた「自分の兵籍は九州に在るが豫備役になつたから結婚して民法上の手續きは完全にすませたから還度兵籍上の手續きをすると區役所の役人が「兵籍上の手續きをすませた上で民法上の手續きを履まなくてはイカヌから一度離婚の手續きをして兵籍上の届けをなしそれから又民法上の届けをせよ」と云ふたには實に馬鹿々々しく感じた」と。

▲建部博士の離婚問題と云ひ石倉文學士の結婚問題と云ひ壓制的干渉的結婚の結果であり人類がその個性を自覺して從來の個性を沒却し人格を無視する結婚に滿足せぬ結婚であるのを知れば毫も怪しむ所は無い寧ろ當然の事ではない乎それを悪いとか怪しからぬとか論つらふのは愚もまた甚だしと云はねばならぬ。

▲序に記す同倶樂部例會は會費金三十銭で晩餐を供した上に愛氷先生のチチ／＼論や滄浪氏のガミ／＼論など中々面白いものが聞かれるマア閑暇な人は氣散じに行くのも宜からう。

正誤

前號の「記者より」の中に、本誌の改正定價を半年分四十銭としたのは、四十二銭の誤であります。右御承知を乞ふ。

新刊紹介

▲簡易生活（月刊）　芝區白金三光町其社
▲世界婦人（月二回）　府下淀橋町角筈其社
▲少年（月刊）　時事新報社
▲英學生（月二回）　神田區表神保町東西社
▲大東京（月二回）　神田區仲猿樂町大東社
▲弘道（月刊）　麹町區飯田町大日本弘道會
▲書畫骨董雜誌（月刊）　本郷區千駄木林町其社
▲家庭新報（月二回）　小石川區久堅町家庭社
▲家庭之友（月刊）　本郷區西片町内外出版協會
▲婦人新報（月刊）　府下豊多摩郡澁谷村其社
▲神奈川教報（月刊）神奈川縣足柄下郡溫泉其社
▲海國（月刊）　京橋區銀座佐久良書房
▲新人（月刊）　小石川區表町其社
▲ホトトギス（月刊）　麹町區富士見町俳書堂
▲新婦人（月三回）　千葉本町其社
▲中央公論（月刊）　本郷區西片町反省社
▲新東京（月刊）　神田區三崎町其社
▲ローマ字（月刊）　本郷區東片町新公論社
▲家庭週報（週刊）　女子大學内櫻楓會
▲日本の家庭（月刊）　神田區表神保町同文館
▲婦人衛生雜誌（月刊）　大日本婦人衛生會
▲牟婁新報（毎三日刊）　紀伊國田邊町其社
▲うらにしき（月刊）　神田區南甲賀町尙絅社
▲週報（週刊）　芝區神谷町其社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(Kono ran wa Fukao Shō ga kaku.)

Rōmaji Hirome-kwai.

Kōdō Kokugo-kai toka nantoka oiro no hantairon wa deta keredo monaka no yoron no daitai wa ōmaji ron ni katamuite iru no ·, Rōmaji Hirome-kai wa dandan kan ni natte kuru. Kokorozashi u shokun wa dōzo kono kai e yūkaishite Rōmaji o hiromeru koto i chikara o soete kudasai. Atari-iaeno kaiin wa nyūkai no toki ni)sen daseba ato wa betsuni kaihi yū mono wa irimasen. Jimusho: ōkyō Hongo Higashi-Kata-machi 11 banchi.

---

hōgakkō Kyōiku no Nengen.

Konogoro Mombushō de wa Shō-;akkō no shugyō nengen o nagaku hite rokkanen ni aratameyō tō yu uwadate ga aru sō da. Sore mo 'okarō. Ima no Jinjō Shōgakkō ka-nen de wa, sotsugyōshite mo iekkara yaku ni tatanai, tegami ip-pon kakeya shinai.

Shikashi kore wa nanno tame? Yūmadomonaku Kanji no tame de aru. Nippon ga moshi Rōmaji de arunaraba 4ka-nen de mo tegami kurai wa kake ru no da keredomo, kanashii kana, muzukashii Kanji to yū mono o ano kodomo no chiisana atama de narai oboenakereba naranai. Shōgakko Kyōin o shite miru to dorehodo kono Kanji no tameni kodomo ga kurushinde iruka yoku wakaru. Soshite soreni tsuketemo Kanji o haishite Rōmaji ni shitara dorehodo hitodasuke ni naru darō to omowareru.

Shōgakkō no shugyō nengen o 2nen ōku suru yori mo Kanji o hai-shita hō ga yoi. Iroiro no *Science* o manabu koto mo deki, kotoba ya bun o renshūsuru koto mo deki, soshite uso-ji o kaku shimpai omo manukareru.

Shōgakkō 6ka-nen seido o yaru mae ni naze danzen Romaji o totte Nippon no moji to suru koto o kangaenai no darō ka to watakushi wa sukoburu Monbu Tōkyokusha no ukatsu o ayashimu.

改正定價

一部金八錢
六ヶ月前金四十二錢
一ヶ年前金八十錢
（何れも郵税共）

廣告料

特別一頁十圓
普通一頁七圓

▲本誌は毎月一回（一日）發行とす、
▲代價は小爲替を以てお送り下さい。郵券代用ならば五厘切手で一割増に願ひます。
▲御注文の時は必ず何卷何號より何號まで何册の前金と明瞭に御記載を願ひます。
▲御手紙には必ず住所姓名をハツキリとお書き下さい。又御轉居の際は新舊の宿所を併せて御通知を乞ふ。
▲本誌は前金でなくては一切御註文に應じませぬ。前金の切れた時には帶封に「前金切」と朱印を捺して上げますから御注意下さい。
▲歐米諸國よりの御注文は別に一册に付二錢づゝの郵税を申受けます。

明治四十年二月廿五日印刷
明治四十年三月一日發行

東京府下新宿淀橋町柏木三四二
發行兼編輯人 兼印刷人 大杉榮

東京市京橋區日吉町十番地
印刷所 近藤商店

東京府下新宿淀橋町柏木三四二
發行所 家庭雜誌社

大賣捌所 上田屋 東京堂 良明堂 東海堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見よ陽春の装ひを凝らして現はれたる婦人世界を

趣味満幅

婦人世界

有益無比

三月一日發行 毎月一回 二卷第三號 一冊拾五錢 郵税一錢五厘 半年分郵税共九拾錢 一年分一圓七拾五錢

口繪

◎彩色石版畫三枚皆美麗
◎名家の新婚寫眞
◎名家の令孃寫眞
◎東京勸業博覧會の全景
◎獨逸貴婦人日本服を着けて歡樂す
◎其他委く珍奇

◎私の肺病全治實驗 野村敏子
◎茶ばなし（名家奥樣方の珍談奇話）
◎感心なる女學生 女子美術學校谷氏
△女中奉公して初志を貫きたる女學生
◎小兒感冒の手當 加藤博士
△子供の感冒はどうして起るか
△感冒の手當はどうすればよいか

▲第二回大懸賞珍附錄當選發見法！
◎新案の氷嚢自在器（家庭の一大要具）
◎インフルエンザと恐るべき鼻病 ドクトル佐藤敏夫
◎名家結婚年齢調べ ◎流行の衣服……
◎家庭の重寶（飯を早く炊く法其他皆有益）
◎少女欄 面白き―事無類― 懸賞 讀者文藝

空前の大文字

娘時代の生活法 村井弦齋

△心の修養は何を先とすべきか
△虚言の癖は如何にして起るか
△虚言の癖は如何に矯むべきか
△多辯の癖は如何に矯むべきか
△惡口の癖は如何に矯むべきか

△我儘の癖は如何に矯むべきか
△依頼心の癖は如何に矯むべきか
△嫉妬の癖は如何に矯むべきか
△色々の癖は如何に矯むべきか

◎完美なる自由結婚の實行者 鳥井君子女史 面影
◎雛祭の準備と雛道具の保存秘法……
◎電話交換手の實歴談
◎子供の部屋の造り方とその設備……
◎小遺帳（小說）……米光關月

◎弦齋夫人三月の珍料理

御覧なさい

△くわゐは如何に料理するか……
△嫁菜飯は如何に造るか……
△玉子は如何に選ぶか……
△玉子は如何に貯へるか……
△ムツは如何に料理するか……
△ひらめの煮凍りは如何に造るか

米國大統領候補者ブライアン氏の夫人（大政治家の夫人書生の靴下の破れを繕ふ）米國文學博士山下彌七郎

發兌元 東京京橋南紺屋町十二番地 實業之日本社 郵便振替貯金口座（參貳六番） 賣捌 全國書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此清心丹は全國到る所にあり

ニツケル罐入にてポツケト用に適す

清心丹

清心丹は四季欠くべからざる懐中要薬にして心神の鬱憂を散じ食物の消化を補ひ風土變更水あたり船車の不快等に卓効あり

東京市元大坂町
高木與兵衛

旅行又は平常携帯に便利也

効能如神

麻病根治神劑

定價

一ケ月分 金壹圓五十錢
十五日分 金九十錢
一週間分 金四十五錢
三日分 金二十錢

全國無料送達
市內即刻配達ス

發賣本舗

東京市神田區皆川町

一志堂藥舖

電話本局三〇四〇番

●歯科治療 自午前八時 至午後六時●

神田區須田町二十六番地

歯科醫 吉瀬才市郎

勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意

晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

◉眼科診察 毎日 午前◉

京橋南佐柄木町五

（電話新三四五八）川上眼科院

外科皮膚病 梅毒 痔痳 外科 道器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際 出雲橋 加藤病院

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時

小田原海岸 毎月曜午前中

產科 婦人科

横濱市眞砂町二丁目廿六番地

朝長鷹二郎

診察毎日午前

御用 諸學校

Manufacturer of Various Appliances for Gymnastic & Other Out-door Games.

東京神田裏神保町
安藤商店
電話本局四八四番

改良ロンテニス 二重枠ラケット一組

一號品	一二、五〇〇
二號品	一一、〇〇〇
三號品	八、八〇〇
四號品	七、四〇〇
五號品	六、七〇〇
六號品	五、七〇〇
七號小學用	四、七〇〇
八號婦人用	六、〇〇〇
九號婦人用	七、〇〇〇

体育用品

東京神田裏神保町五
S.A. 安藤商店
電本 484

ピンポン室内テニス

一號一箱	一、二二〇
二號同	一、五〇〇
三號同	一、六八〇
四號同	一、八三〇
號外同	〇、八八〇

改良テニスネット

一號一張四間半	一、七五〇
二號一張五間半	二、二五〇
三號一張六間	二、四五〇
四號一張七間	二、九五〇

ゴム入フートボール

二號一個	四、〇〇〇
三號同	四、五〇〇
四號同	五、〇〇〇
五號同	五、五〇〇
六號同	六、〇〇〇
七號同	六、五〇〇
八號同	七、〇〇〇

體操遊戯器械一切

東京神田裏神保町
安藤商店
電話本局四百八十四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第五回内國勸業博覽會銅牌及褒賞狀受領

●壽美禮おしろい●

ねり製 定價（大罎 二十錢／小罎 十二錢）

水製 定價（大罎 二十五錢／中罎 十五錢／小罎 十錢）

登錄商標

壽美禮おしろい

五二會品評會功勞

THE BEST MADE
SUMIRE
VIOLET PASTE

ヴワイオレツト煉製
錫蓋附乳白硝子器入
壽美禮おしろい

ヴワイオレツト水製

錫栓附乳白硝子壜入

すみれ白粉は　歐米諸國に專ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素新成蹟體等を以て配劑しあるを以て肌を艶麗ならしめ芳香馥郁として長時間保續するの特性あり『壽美禮白粉』は常に用て御顏肌へを淸々しく天然の色白きに至るべし菫『おしろい』は芳香馥郁と長く保つが故宴會、祝席、雜踏の塲所に臨て衛生上生上有益無比の逸品なり『壽美禮白粉』は高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京横濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

●西洋洗滌劑壽美禮あらい粉の特性

●弊舗製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に專ら賞贊する香料及弊店新製の原料を用ひて製せしものなれは朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあかを落し御肌を美しくなす

◉常に髮洗ひに用ひ給へば髮のねばりを取り油あか等を生ぜず又半襟ハンカチーフ絹綿等に用ひて能く汚垢を落す總て物を染白する性あり

◉使用法は普通あらひ粉の半分にて能し水又は溫湯に溶し又はぬかに混せ入浴の際用ふるを良とす

綠、藍、紅彩蝶番ひ鑵詰　七錢五厘

大袋入　二錢

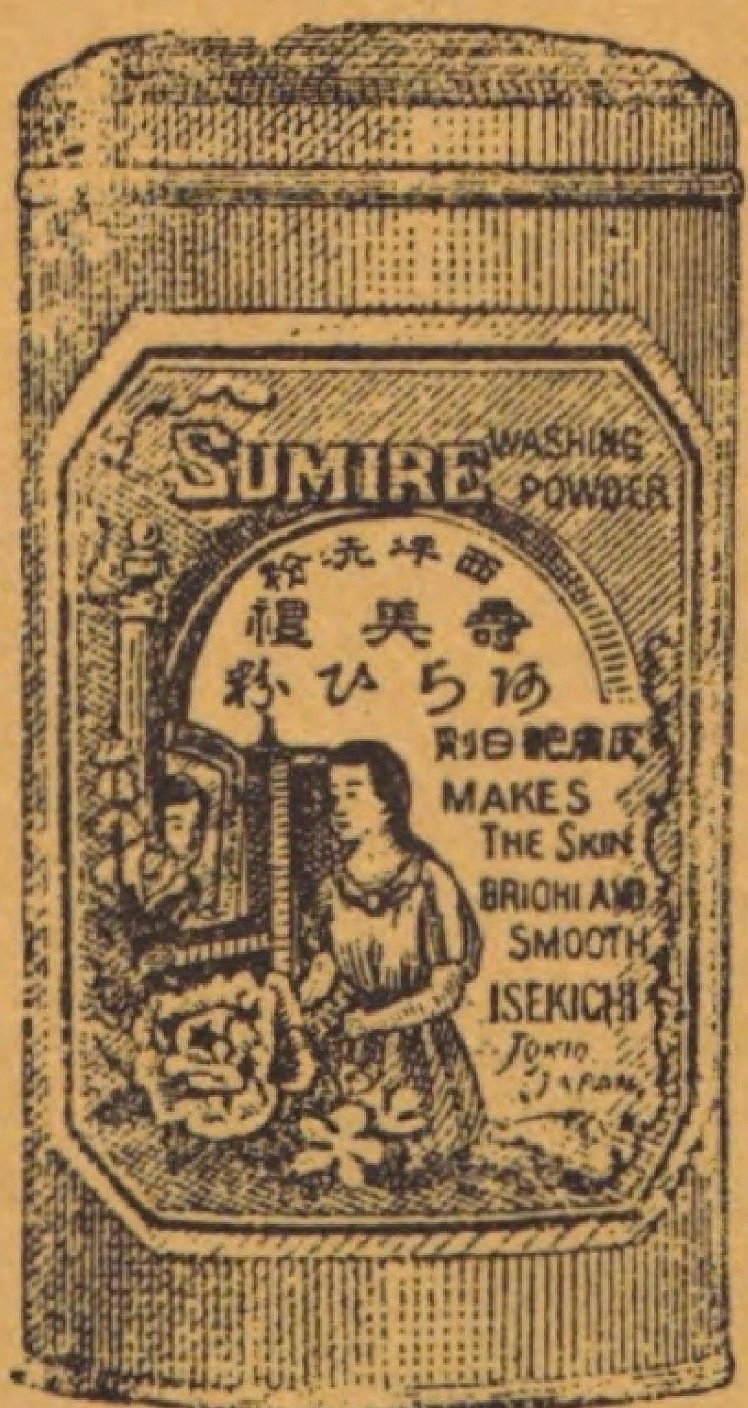
袋入　壹錢

登錄商標

西洋色白くなるあらひ粉

SUMIRE.
Washing Powder

壽美禮あらい粉



製造本舗　東京東兩國元町兩國橋際

壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勸工塲各劇塲運動塲に有り

カメリヤ洗粉

カメリヤは色を白くし
艶をよくする最新最良の洗粉なり
カメリヤは優美なる香氣を有し一度之れを用ゆれば芳香永く身邊に薫りて自から心氣爽快ならしむ
殊に貴紳淑女の高等化粧料として大に社會に高評を博せらるゝ本邦唯一の洗粉也

定價
大瓶廿五錢
瓶入十二錢
袋入五錢
小袋三錢

ライオン歯磨發賣元
東京神田　本舗
小林富次郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA